

# 第46回(2023年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2024/3/30】

## この試合のプレー集計

**C決勝**  
京都踏水会水泳学園

11

4	—	1
2	—	0
4	—	1
1	—	3

5 富山スイミングパレス

PSO  
審判： 中村 友美  
川東 雅

京都踏水会水泳学園	22	SH数	14	富山スイミングパレス
	9	速攻数	1	
	11	ST・SB	5	
	9	SH・P誘発アシスト	2	
	50%	GK阻止率	21%	
	3	EX反則数	3	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	STアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
京都踏水会水泳学園	47	30	9	10	23	23	5	7	12	45.5%

(4試合合計)

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	STアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
富山スイミングパレス	58	29	21	19	16	33	6	9	20	35.5%

(5試合合計)

## 【試合の流れ】

ジュニア水球女子で圧倒的な実力を誇る京都踏水会。対する富山は粘り強いディフェンスでここ数年、京都に対抗するチームに成長してきた。何度も対戦している両チームであるが、京都②大前をどこまで富山が抑えられるか。昨年末の桃太郎カップでは富山は京都②大前を最後にはゲーム・エクスルージョンに追い込んだものの、それまでに7点も取られ、しかも第1ピリオドだけで5点もマークされるなどが響いてしまった。本ジュニア選手区分よりも上位学年での対戦となった先日の潮風カップ決勝でも京都と富山は対戦していたが、京都の圧倒的な攻撃力で富山は完敗。一昨年の桃太郎カップで見た富山の中盤プレスディフェンスが蘇れば接戦に持ち込める可能性がある一戦。

### 【1P】

富山は戦前の予想どおり、中盤からのプレスディフェンスで京都側のミスを誘い出す序盤の展開。富山はマイボールからのアーリー・オフenseで果敢に攻めるが、肝心の場面で選手の動きが止まってオフense反則。そうした一進一退の攻防が続いたが、京都側が素早い展開で⑦沼井がペナルティ誘発。②大前がペナルティSHをポストに当てるも自身が拾ってリバウンドSHで京都が先制。しかし富山は再開後の全員攻撃で京都ディフェンスの間隙を突き、狙いすました⑤今村のミドルシュートが決まってすかさず同点に。しかし京都もセンターで⑥高木、ミドルシュートで⑤吉田、最後は得意のカウンター攻撃でエース②大前が決めて一気に京都4-1富山と差を広げて第1ピリオド終了。

### 【2P】

センターボールからの京都の攻撃、⑥高木がセンターで退水を誘発し⑤吉田が退水SHを決めて点差を広げる。再開後の富山の攻撃を②大前がインターセプト。そのシュートはポストで失敗したが、富山のオフense反則から②大前がミドルレンジから6mSHを豪快に決めて追加点をあげ、京都6-1富山と点差を広げて前半を折り返した。ゲーム序盤は富山は何とか②大前の動きを止めていたが、徐々にマークや対応が遅れ始め、どんどん攻め上がる形を作られて劣勢に。その分、富山側の攻撃もスピードが不足してしまい、京都側に簡単に守られて突破口を見いだせない試合展開となってしまった。後半の挽回に期待したい。

### 【3P】

富山側は中盤プレスディフェンスというよりも京都のセンター攻撃を下がりディフェンスで対応するようになって、京都側に決定機を作らせない。しかし、全員が後方守備に布陣したため、攻撃へのスピードは鈍り、シュートにまで持ち込まず、「専守防衛」的な戦況になってきた。そうした中でもやはり京都②大前が富山ボールをスチールし、そこからスルスルと中央突破のカウンター攻撃。気が付いたら3-2速攻場面を形成しているラストは②大前が決めて京都7-1富山。ピリオド中盤までの攻防で体力的にきつくなった富山が、仕掛けの速いセンター攻撃も京都GK①武田に簡単にスチールされて京都カウンター攻撃。独泳の⑥高木が決めて京都8-1富山。富山は何とか②山下がゴール前に攻め込んでペナルティを誘発して2点目を返すが、直後には京都が退水を奪って②大前が、さらに富山のシュートミスを突いて速攻でまたもや②大前が決めて、京都10-2とこのピリオドでも差を広げて第3ピリオド終了。

### 【4P】

後のなくなった富山は、中盤プレスディフェンスからの速いリズムでエース②山下にボールを集め、センター攻撃で1点を返す。しかし京都も②大前が6mSHを決めて11点目。そこから富山が猛攻。②山下がミドルで決め、さらに京都攻撃をプレスで凌いでチャンスを作らせずにオーバータイム。そこから②山下のセンターシュートでこのピリオド3点を返す。最後も富山はタイムアウトからの猛攻も②山下のシュートを京都GK①武田が止めて試合終了。またしても京都11-5富山で京都に凱歌が上がった。

この試合でも序盤からの京都②大前の動きを止められずに、結局は②大前に7点をマークされてしまった。攻防転換時、特に守備から攻撃場面での彼女の動き出しに富山はまたしても付いていけなかったわけで、富山側としては攻撃をどう終えるのかへの全員の意識共有がこれからの課題となるだろう。